

令和4年12月8日

保護者各位

静岡・裾野市の保育園虐待問題について（前編）

さくらしんまち保育園  
園長 小嶋泰輔

いつも保育園へのご協力、誠にありがとうございます。標記の報道では目を背けたくなる様な酷い虐待内容が明らかにされ、刑事告発や逮捕となりました。裾野市長が放った『犯罪』という言葉はどう受け止めて良いか、私自身まだ気持ちの整理がつきません。

過去にも保育園や幼稚園、小学校、あるいは家庭内において、子どもの人権を踏みにじる虐待があり、未だ根絶には至っておりません。

虐待は急に起こるものではなく、徐々にエスカレートしてそうなるものです。今回の件でも、もっと早い段階で虐待の芽となる叱責や軽視を止められなかったのか、ついカッとなってしまう仲間を支える同僚性はなかったのか、もっと言えば叱らなくていい保育に変えられなかったのか園長はなぜ手をこまねいていたのか、考えれば考える程、悔しい気持ちになります。

虐待の問題を対岸の火事と片付けてはいけないと思います。それは全ての大人が見つめ続けなければならない問題です。なぜなら誰の心にも虐待につながる『弱さ』が潜んでいるからです。ぐずぐずする子を過度に叱責したり、子どもを操る為に突き放したり、子どもなりの必死の訴えを一笑に付したり…。虐待の芽は常に自らを振り返ることではか摘み取ることはできません。小さな声を軽視してしまいそうになる弱さとの静かな戦いの繰り返しなのです。

さくらしんまち保育園でも職員一人ひとりが改めて心に手を当てて、自らを振り返りました。私たちには目指す保育があり、それを支える法人や行政、苦楽を共にする仲間がいます。そして何より協力的な保護者の皆様がいます。それらにより虐待が起こることはありません。これまでもこれからもずっとです。

さくらしんまち保育園では年に複数回、虐待チェックを実施して参ります。もし仲間の誰かがその弱さに負けそうになったら、周りが声をかけて救い出す同僚性も大切にしていきます。

もし皆様も育児のストレスに押し潰されそうな時には是非お気持ちをお聞かせ下さい。きっと誰よりも共感できるはずですし、支え合っていけたらと願っております。

人はあらかじめ弱く設計されています。だから優しさや協力があります。みんなで子どもの笑顔を守っていきましょう。

以上